

2002年3月26日

# 平安京冷泉院跡・史跡旧二条離宮現地説明会資料

—収蔵庫建設に伴う発掘・試掘確認調査—

(財)京都市埋蔵文化財研究所

遺跡名 史跡旧二条離宮・平安京冷泉院跡（平安京左京二条二坊三・四・五・六町）  
所在地 京都市中京区二条通堀川西入二条城町  
調査期間 2001年10月15日～継続中

## 調査の概要

今回の調査区は、休憩所北側と緑の園地区とに大きく分けられる。休憩所北側では1区（1-1、1-2、1-3、1-4）と2区（2-1、2-2）を、緑の園内には4区、6区から9区の調査区を設定した。

**遺構** 現在までの調査で、平安時代前期の汀線、平安時代中期～後期にかけての池堆積土層、汀線、景石などを検出した。また鎌倉・南北朝・室町時代の池堆積土層、戦国時代の整地土層、柱穴、井戸、土壙、溝、桃山時代の溝、江戸時代前期の整地土層や江戸時代中期～後期の溝、土壙、柱穴なども発見している。

1区 平安時代中期から後期にかけての庭園を検出した。

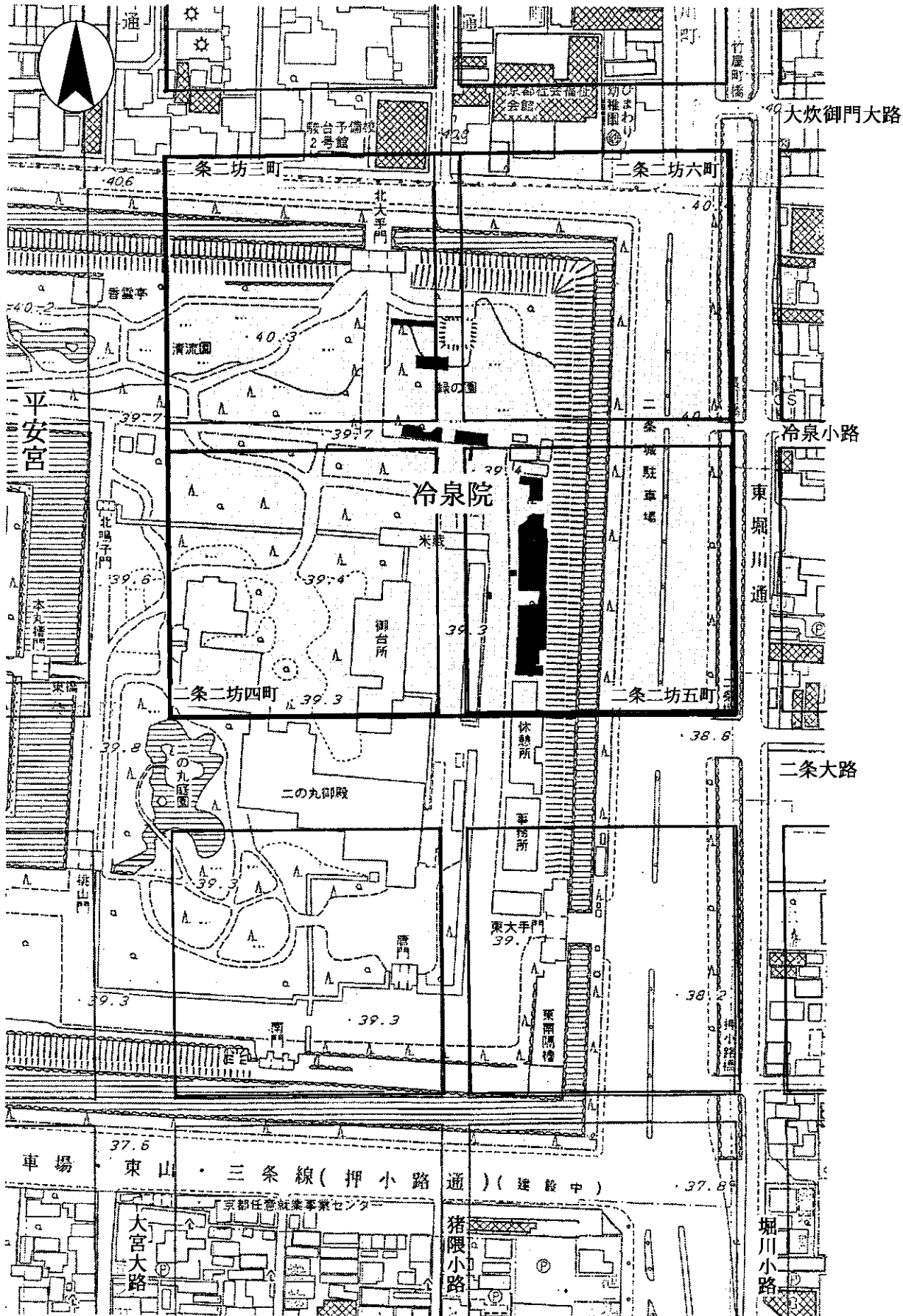
1区-1では、池の堆積土層の上に砂と河原礫をほぼ東西方向に盛り上げ、その陸部に複数の景石を据え付けている（写真1）。

1区-2では、平安時代前期の汀線を一部下層まで掘り下げて確認した。この汀は、北西面する緩やかな傾斜面に円礫を貼付けて洲浜を造成している（写真2）。また、調査区南の陸地では平安時代後期の池の南岸、溝、焼土面、井戸、柱穴、土壙などを検出した。

6区 平安時代中期から後期にかけての汀線と複数の景石を確認した。汀線は東南に面し、肩口には景石を配置している。

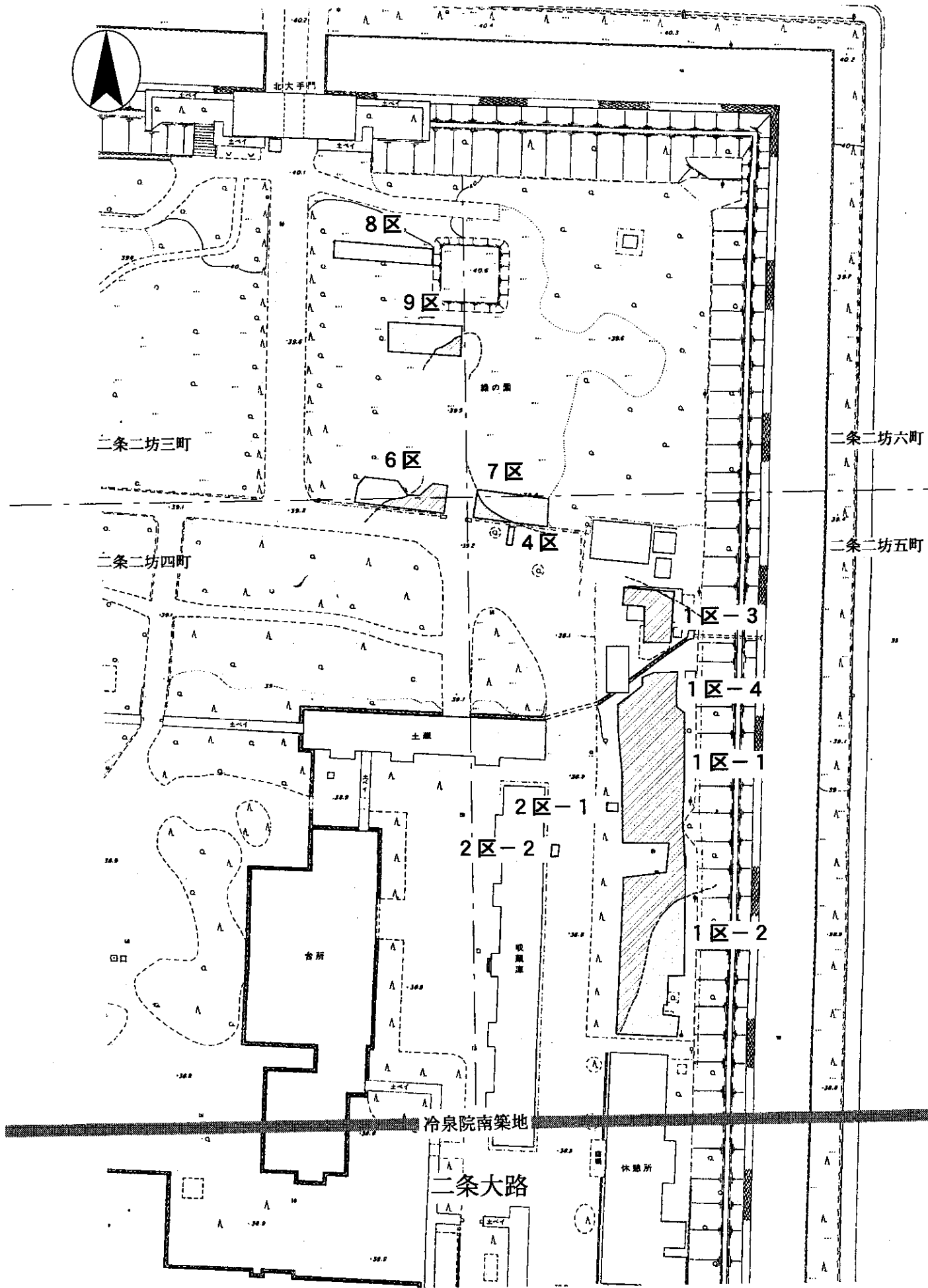
9区 汀線は東南に面し、景石を配置している。昨年度の調査で発見した汀線や景石と一連のものとみられる（写真3）。

**遺物** 平安時代中期・後期の土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・輸入陶磁器(青白磁・青磁・三彩陶・緑彩陶)・瓦器・瓦類。戦国時代の土師器・陶器・輸入陶磁器(青磁・明染付)・瓦器・瓦類。桃山時代の土師器・陶器・輸入陶磁器(明染付)、江戸時代の土師器・陶器・磁器・土師質陶器・瓦類などが出土した。



調査位置図 (1 : 2,500)

■ : 調査区



池跡変遷図 平安時代前期~中期 (1 : 1,000)

□ : 調査区

○ : 池跡





写真1 1区-平安時代後期の庭園（北から）



写真2 1区-池南岸の洲浜（北から）



写真3 昨年度調査した池北岸の景石（北から）